

## 表紙（必須）

1 募集区分	②消防防災科学に関する論文	
2 応募者の区分	(1) 消防職員・消防団員の部	
3 タイトル	〇〇〇〇に関する研究	
4 応募者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「所属」、「氏名」欄に所属と氏名を記入する。フリガナも書くこと。</li> <li>・応募者全員を記入すること。その際、主たる応募者を一番はじめに書くこと。</li> <li>・記入欄が足りない時は行を追加すること。</li> </ul>	
	フリガナ	フリガナ
	所属	氏名
主たる	マルマルショウボウホンブ	ショウボウタロウ
応募者	〇〇消防本部	消防 太郎
	マルマルショウボウホンブ	カサイシズエ
	〇〇消防本部	火災 鎮枝
5 受賞した場合の表彰状・副賞への表記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 応募者」に記入した所属・氏名以外の組織名、団体名や氏名等を表彰状・副賞に表記したい場合は、下の記入欄に記入してください。（フリガナも書くこと。）</li> <li>・上記所属・氏名欄の通りで良い場合は、下の欄には何も記入しないでください。</li> </ul> <p>※詳しくは、「表紙の記入方法」を参照してください。</p>	

## 6 他の公募等への応募状況

応募内容と関連した内容について、応募者が、学会等での発表、原稿の投稿、他の表彰への応募又は受賞をした場合は、以下の欄に記入してください。また、当該発表資料・原稿・応募書類等を、応募作品の末尾に添付してください。

### [口頭発表]

- ・消防太郎、火災鎮枝「〇〇〇〇に関する調査報告」 第60回全国消防技術者会議（2012年10月25日）

### [論文誌への投稿]

- ・消防太郎、火災鎮枝「住宅建物の延焼について」消防火災学会『消火』Vol. 82pp. 66-71 (2012. 5)

### [修士論文]

- ・火災鎮枝「住宅の延焼メカニズムについて—戸建て住宅を対象とした調査・研究—」

## 7 連絡担当者

氏名	原田 究明
所属	〇〇消防本部 △△課
住所	〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4丁目35番3号
Tel	0422-44-8331
Fax	0422-44-8440
E-mail	hyosho2013@fri.go.jp
(該当するものを残す)	勤務先

**★アンケートにご協力ください**

(これは事務運営に反映するための調査であり、作品の審査には一切影響しません。)

1. この表彰事業を何で知りましたか?該当するものを丸で囲んでください。

- ①消防署所での掲示を見て
- ②職場への案内で
- ③消防団からの案内で
- ④消防大学校で ( \_\_\_\_\_科 第\_\_期 )
- ⑤消防研究センターのイベント等で ( イベント名: \_\_\_\_\_ )
- ⑥消防研究センターホームページを見て
- ⑦雑誌等に掲載された募集を見て ( 誌名: \_\_\_\_\_ )
- ⑧その他 ( \_\_\_\_\_ )

2. 応募作品の完成までにどのくらいの期間を要しましたか?該当するものを丸で囲んでください。

- ①1か月～3か月
- ②4か月～半年
- ③半年～1年
- ④1年以上
- ⑤その他 ( 期間をご記入ください: \_\_\_\_\_ )

3. 来年度も募集があれば、応募しますか?該当するものを丸で囲んでください。

- ①来年度も応募する
- ②来年度は応募しない ( 理由: \_\_\_\_\_ )

ご協力ありがとうございました。

## 概要（必須）

1 タイトル	〇〇〇〇に関する研究
2 要旨	
3 先行研究との相違（ある場合のみ）	

本研究は、当消防本部の所轄地域における建物火災について、鎮火に至るまでの時間と被害の規模の関係を調査し、被害拡大に寄与している要因を考察したものである。

今回、当本部の所轄地域内の建物火災について、鎮火までに要した時間と被害の規模を調べた。

その結果から、特に鎮火までに時間がかかった焼損面積の大きな火災は、要素①～④を一つ以上持っていることを明らかにし、それぞれの要素について対応策を示した。

今後は、この対応策の有効性についての検証と、具体的に組織として実施するための方法を、他の部局の協力を得ながら進めていきたい。

住宅地域の延焼性状について研究は、木造密集地域の延焼に関する、氏姓名名「木造建築物地域の延焼」（2008）等がある。また、大規模建築物に関しては、大都市防災研究所等で多くの研究がなされている。しかし、市域規模での火災の傾向について、細かく調査した研究は無かった。

本研究は、2010年の消防・火災による論文「住宅特性と消防戦術（〇〇市における調査から）」によって得られた成果をさらに発展させ、当本部の火災統計と実際の火災内容とを照らし合わせて、建物火災の被害拡大に寄与する要因を明らかにし、その対策を提案した。この点は新しい成果である。また、今回の調査内容は、一地方都市の実態として資料的にも貴重であると考えられる。

## 本文（必須）

タイトル	〇〇〇〇に関する研究
------	------------

1. 研究の背景

.....

2. 先行研究

.....

3. 実態調査

.....

4. 検証

.....

5. 考察

.....

6. 結論

.....

7. 今後の課題

.....

参考文献

- (1)〇〇消防本部(2011)『平成 23 年版〇〇市消防年報』総務課企画係発行
- (2)苗字名前(1996)「含有水分量に応じた木材の燃焼」『燃焼材料』  
Vol.30(1996年9月号)pp.68-76. 日本防火出版
- (3)大都市防災研究所編(2002)『防災とまちづくり』放水社
- (4)田中太郎(2004)『都市スケールと防災』消学館
- (5)氏姓名名(2008)「木造建物地域の延焼」『建物』Vol.62(2008年)pp.42-46.  
建築出版社
- (6)消防太郎・火災鎮枝(2010)「住宅特性と消防戦術(〇〇市における調査から)」『消防学術研究会資料集』(2010年秋号)pp.102-108. 消防研究会

## 図、表及び写真

(消防防災機器等の開発・改良のみ必須、他は任意)

※図、表及び写真には連番を振り、それぞれに説明書きを添えてください。



図①放水から鎮火までの所要時間と焼損面積



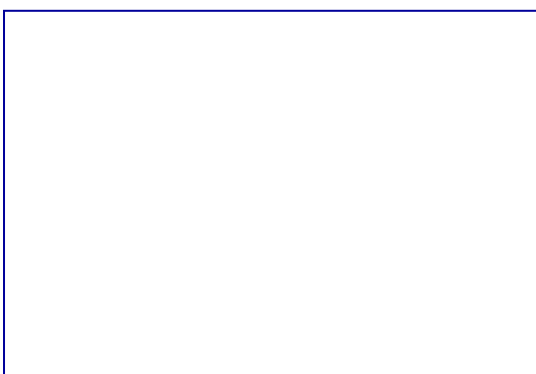
図②覚知から放水開始までの所要時間と焼損面積



図③A～D地区の発報から現地到着までの平均所要時間



図④〇〇市地図（国土地理院発行  
5万分の1地形図 〇〇市）



図⑤延焼シミュレーションその1  
(協力：大都市防災研究所)



図⑥延焼シミュレーションその2  
(協力：大都市防災研究所)